



竹内街道・横大路(大道) ~難波から飛鳥へ日本最古の官道~ ガイド付ウォーキングイベント

大阪府太子町 コース マップ

聖徳太子や推古天皇が眠る王陵の谷から竹内街道を巡る、古代を感じるコース

日本遺産認定歴史の道、竹内街道・横大路(大道)とは

推古天皇21(613)年に敷設された竹内街道・横大路(大道)は、外交の玄関口である難波津から堺を経て、政治の中心だった飛鳥・小墾田宮(おほりだのみや)を結ぶわが国最古の官道。総延長約40キロ、幅20メートル以上だったといわれる。難波宮の朱雀大路から南下する難波大道、堺と長尾神社(奈良県葛城市)を東西に結ぶ竹内街道、長尾神社から小西橋(桜井市)を結ぶ横大路の三つの道からなる。古代以来、大陸との外交や聖徳太子信仰、物流の拠点を結ぶ経済など、時代とともに多様な表情を刻んできている。平成29(2017)年に日本遺産に認定された。



主催:竹内街道・横大路~難波から飛鳥へ日本最古の官道「大道」~活性化実行委員会 共催:産経新聞社
(大阪府・大阪市・堺市・松原市・羽曳野市・太子町・奈良県・葛城市・大和高田市・橿原市・桜井市・明日香村)

ガイド:太子町観光ボランティアガイド「太子街人の会」

令和元年度文化庁文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)

日本遺産構成文化財



⑤ 推古天皇陵

日本最初の女帝、第33代推古天皇の陵墓で、一辺の長さが60m、高さが11mの方墳です。推古天皇の子、竹田皇子も一緒に埋葬されているといわれています。

日本遺産構成文化財



⑥ 大道旧山本家住宅

●開館時間:通年の土日(年末年始を除く)10:00~16:00
●入館料:100円 ●TEL:0721-98-5534(太子町教育委員会事務局生涯学習課)

大和から河内にかけて街道沿いに残る「大和棟」の民家です。母屋の屋根は茅葺きの切妻屋根の両側を本瓦葺きとし、妻部分を高壁造りとする特徴的なもので、製造手法や聞き取りから江戸時代末期の建築と思われる。

日本遺産構成文化財



⑦ 孝徳天皇陵

第36代孝徳天皇の陵墓です。竹内街道沿いに造られた直径30mの円墳で、「うぐいすの陵(みささぎ)」の名で枕草子にも紹介されている大変美しい古墳です。



⑧ 竹内街道歴史資料館

●開館時間:9:30~17:00 ●休館日:毎週月曜日(休祝日の場合は開館)、年末年始
●入館料:一般200円、高校生・大学生100円、小・中学生50円 ●TEL:0721-98-3266

竹内街道関係の資料や太子町で出土した遺物や古文書などが展示されており、最古の官道と呼ばれる竹内街道と太子町との関りやその歴史を分かりやすく解説しています。

日本遺産構成文化財



① 叡福寺

●境内拝観時間:7:30~17:00
●TEL:0721-98-0019

寺伝では、推古30年(622年)聖徳太子の御廟を守護し、永く追福を営むために一堂を構えたのが始まりとされており、神亀元年

(724年)聖武天皇の勅願により伽藍を造営されました。東の伽藍を転法輪寺、西の伽藍を叡福寺と称したと伝えられています。

12世紀後半には平重盛によって堂塔の大修理がおこなわれますが、天正2年(1574年)織田信長の兵火によって全山焼失します。その後、慶長8年(1603年)豊臣秀頼による聖霊殿の再建を契機に伽藍の再興が始まり、江戸時代中期までに金堂、多宝塔などが再建され、現在の伽藍の姿に整備されていきました。

平安時代には、嵯峨天皇をはじめ多くの天皇・皇族が参詣しており、また日本仏教の祖とも言うべき聖徳太子の墓所があることから、空海、親鸞、日蓮など新仏教の開祖となった僧たちもこの寺に参籠しました。

日本遺産構成文化財



② 聖徳太子御廟

聖徳太子廟の墳丘北側に隣接する丘陵は五字ヶ峯と呼ばれ、太子が27歳の秋、秦河勝からもらった黒毛の馬に乗って、自ら諸国を巡ったといわれています。その目的は、1つに国々の境を知るため、2つに伽藍創建の地を選ぶため、3つに自分の墓を造る場所を見つけるためだとされています。このとき、富士山から河内の方角を眺めると、五色の光が空に輝いており、その地こそ探し求めていた場所だということで、後にそこに墓を築いたといわれています。その墓がいまの太子廟で、光が輝いていたところが五字ヶ峯といわれています。



③ 西方院

●TEL:0721-98-0133

寺伝によれば、聖徳太子の死後にその乳母であった月益姫(蘇我馬子の娘)・日益姫(小野妹子の娘)・玉照姫(物部守屋の娘)が剃髪してその名を善信・善

藏・恵善と改め、お堂を建立し、太子の遺髪を納めて、その冥福を祈ったのが始まりとされています。

当初は、法楽寺と呼ばれていましたが、その後荒廃し、江戸時代の寛永16年(1639年)に蓮善壽性尼(レンジョシヨウニ)が西方院として再興したとされています。

本尊は、聖徳太子の作と伝える阿弥陀如来と恵心僧都作と伝える十一面観音菩薩像です。

伽藍の南側に三尼公の御廟とされる3基の凝灰岩製の多層塔があります。

日本遺産構成文化財



④ 用明天皇陵

聖徳太子の父親、第31代用明天皇の陵墓です。四角形の一辺は、100mの長さがあり、当時のトップクラスの方墳で、規模、構造は大和飛鳥の石舞台古墳に似ています。

